

キラリ! 地域おこし協力隊

遠野に移り住み活動する「地域おこし協力隊」の活動の様子や関連イベント情報などをお伝えします。



Q 遠野に移住する前はどんなことをしていましたか?
倉庫会社に就職し、名古屋市内で顧客の在庫管理や輸出入、国内配送に関わる仕事をしていました。遠野で栽培されたホップの保管やキリン株のモルトを輸入する業務もあったので、その頃から何か縁があったと感じています。

Q 遠野に来てからどんな活動をしていますか?
ホップ農家さんから栽培方法を学んでいます。今まで農業と関わ

中村 友隆 隊員 愛知県名古屋出身・28歳(2018年7月着任)

「ホップ栽培を継承して持続可能な産業へ」

Q 遠野に移住する前はどんなことをしていましたか?
倉庫会社に就職し、名古屋市内で顧客の在庫管理や輸出入、国内配送に関わる仕事をしていました。遠野で栽培されたホップの保管やキリン株のモルトを輸入する業務もあったので、その頃から何か縁があったと感じています。

Q 遠野に来てからどんな活動をしていますか?
ホップ農家さんから栽培方法を学んでいます。今まで農業と関わ

つくる大学

地域おこし協力隊の宮本拓海隊員と山岡隊員の所属する株式会社コモンズが開校した市民大学的学びの場「つくる大学」。講師・参加者が共に教え、学び合うインタラクティブスクール(双方向の学びの場)として、遠野の地域資源を活用した様々な講座・サークル活動・イベントを定期開催します。



参加者、求む。「早池峰山の「お山かけ」を再現! たいまつを灯し、山頂を目指す」

昔、集落を代表する若者たちが1年の安全を祈って早池峰山の山頂を目指した「お山かけ」。雑誌『パパヤチニカ』で紹介されたお山かけに、20年ぶりに挑戦します!

- 日時・定員 7月7日(火)17時~8日(水)13時、5人
- 集合場所 早池峰交流館(附馬牛町上附馬牛19-75)
- 参加費 10,000円(技術指導料、傷害保険料、食費込み)
- 準備物品 飲み物、非常食(あめなど)、ヘッドライト(任意)、山歩きできる服装・靴、防寒着、雨がっぱ(アウトドア用の上下)、タオル、着替え、ビニール袋数枚
- 参加方法 前日までに、メールまたはホームページから申し込みください

■問い合わせ つくる大学運営事務局
Mail → tsukuru-univ@nextcommons.co.jp
HP → https://note.com/tsukuru_univ



遠野人

★筆者 小田 富英

遠野文化研究センター研究員。『地名と風土』編集長。武蔵野市立小学校教員時代、「ふるさと学校体験留学」や「児童交流」の引率に携わる。現在刊行中の『柳田國男全集』編集委員として昨年「柳田國男年譜」を刊行。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今回は同センター研究員の小田さんによる、遠野の情報発信についてのお話です。



ウッドランズ高校の学生たち

今から4年前の7月初め、アメリカヒューストン郊外のウッドランズ高校の19人の高校生と2人の卒業生、そして引率の先生が遠野を訪れました。目的は、授業で日本語を学び、電子書籍の『口語訳 遠野物語』(河出文庫)から自分で選んだ話のストーリーテリング※を遠野の人たちの前でやってみようということでした。私は、佐藤誠輔先生が訳した本書に「注」を書かせていただいたこともあって、この企画を何としても実現させたいと思いました。その結果、小学生の時に「ふるさと学校体験留学」や児童交流(これらの引率も私でした)で遠野に来たことのある武蔵野の学生、法政大学の英語サークルの学生さんたちの協力を得て、遠野みらい創りカレッジを拠点に充実した三日間を過ごすことができました。目的のストーリーテリング大会は、二日目の夜、遠野昔話語り部の会の人たちを中心とした多くの遠野市民の皆さまの前で、緊張しながらも和やかに終わることができました。一日目のクイズ交流会に来てくれた市内の中学生、三日目におじゃました土淵小学校の皆さまにも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

初の来日で、それも京都、広島と回るハードスケジュールにもめげず、大きなトラブルもなく過ごし、笑顔一杯で遠野を去っていったアメリカの高校生たちを見て、私は、日本人も負けてはいられないと思ったものです。

そこで私は、『遠野物語』を読み、課題をもって遠野を訪れ、遠野の人たちと交流することを目的とした試みが、これからの地域間交流の本筋になるべきと考え、『遠野物語』で交流を楽しむ会(略『遠野物語』交流楽

会)を立ち上げ、昨年二日続きのイベントを川崎と武蔵野で行いました。遠野から語り部の会の堀切初さんに来て頂き、一日目は遠野出身のシンガーソングライター船越由佳さんと、二日目は女性落語家の三遊亭遊七さんとのコラボのなかに、両日とも私の話を挟み込ませていただきました。堀切さんと船越さんのコラボは、昨秋、遠野でも社会福祉協議会のイベントとして広がりましたし、男性語り部と女性噺家の新鮮な組み合わせも今後の可能性を感じさせてくれました。今年の春には、この組み合わせに二本の映像を加えて、一日がかりの「第3回『遠野物語』交流まつり」を開催するつもりでしたが、コロナ禍の影響で延期せざるを得なくなりました。今後、こうした会をさらに積み上げていき、『遠野物語』を読んだ「課題」を抱えて遠野を訪れる人たちを増やし、遠野市民の皆さまとの交流会を、あの時のアメリカの高校生の会のように実現したいと、今だからこそ一層強く夢見るこの頃です。



交流まつりの様子。左から遊七さん、堀切さん

※伝えたい思いなどを、物語を引用することで印象づける手法
★遠野文化友の会学習会

遠野の森林鉄道について

かつて遠野に存在した森林鉄道「附馬牛軌道」について、新発見資料を交えてご紹介します。

■日時 7月15日(水)・16日(木)19時~20時半

※いずれかを選択し申し込み

■場所 遠野市立図書館視聴覚ホール

■講師 岩手南部森林管理署遠野支署長 野木 宏祐 氏

■定員 30人(各回)

★申し込み 遠野文化友の会事務局(財)遠野市教育文化振興財団内 TEL:62-6191

★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:62-2340/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp